

バルカーテクノロジーニュース 冬号発刊にあたって



皆さまには、日頃から Valqua Technology News をご愛読いただき、心より御礼を申し上げます。
また、謹んで2022年新春のお慶び申し上げます。

昨年は、COVID-19 の世界的な蔓延が相変わらず収束せず、世界の産業界には多大な影響が継続してありました。しかしながら、そのような状況の中であるがゆえに、IT技術を活用したサービスインフラの構築やコミュニケーションツールの開発が進み、新たな業務やプロジェクトのプロセスが標準化するような状況となりました。他方、私たちを取りまく事業環境としては、サステナビリティに対する関心の拡大が反映され、カーボンニュートラルを目指した様々な技術議論が展開されたと認識しています。また、あらゆる物がネットワークで繋がり、そこから得られる情報のマネジメントがビジネスにおける重要な論点となる中で、半導体及び関連部材の需給に対してBCPという視点からの議論がなされるような新たな事象も経験された年でありました。

当社は、このような事業環境の下で、2027年の創業100周年に設定した大きな目標の実現に向けて、昨年よりコーポレートトランスフォーメーション(CX) というコンセプトの中で様々な取組を推進してきました。技術開発の領域においても、H&S企業への進化を実現するために既に着手をしているオープンイノベーション活動について更なる注力をしてまいります。技術開発が非常に速いスピードで起きている現況で、継続的に顧客の皆さまに対して新たな技術ソリューションをお届けするためには、アジャイルでかつ質の高い技術開発を実行することが必要不可欠となります。そこで、当社においては国内外において優れた技術を持つ研究機関、アカデミア、企業などとの間で形式に制約を設けることなく協業を検討して行くことが必須であると考えており、既に発表をしている技術ベンチャー企業との協業体制もそのような考え方が背景となっています。

長年の技術活動の成果として、当社はシールエンジニアリングと材料設計の分野で技術の蓄積を行ってまいりました。今後の技術開発におけるCX活動においては、これらの蓄積を元にしてそれを上述のオープンイノベーションを活用して、更に進化させていくような活動を推進してまいります。具体的には、マテリアルインフォマティクスなどの手法も活用し、新たな機能を持った材料を創造し、それらをデジタル情報と接合させることで新たなサービスの創成へと繋げていくことを実現させていきたいと考えています。前号でも取り上げましたが、IoT 技術を利用した予知保全に関する技術開発はその一つの例ですが、既に皆さまにご紹介が出来る段階までに技術開発は進んでおり、近い将来に実際の生産現場でこれらのソリューションがお役に立てるようになることをご期待いただきたいと思います。

このような背景の下、今号のテクノロジーニュースでは、当社技術の原点であるシールエンジニアリングの応用技術、新たな素材を用いたセンシング関連の技術、そして今後の技術開発における適切な方向性をIPから検討する手法についてトピックスとして取り上げています。これらの記事が、皆さまのご参考となりますことを願っています。今後とも、当社製品・サービスともども、バルカーテクノロジーニュースを引き続きご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

取締役CTO 青木 睦郎